

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ  
Quarterly magazine FOYER  
2023 Autumn

つながる、ひろがる、あつまる  
ほわいえ

018

# FOYER



welcome to the square

Special feature  
ようこそ広場へ 県劇盆踊り

みんなで踊ろう!  
～障がいのある人もない人も、一緒に踊るワークショップ～

日常に、劇場を。



Life with a Theater.



熊本県立劇場

KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】  
公益財団法人 熊本県立劇場  
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971  
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】  
株式会社 ジャム  
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017  
www.jam-cf.com

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ 2023 autumn 発行日:2023.9.20 ※掲載内容は8.31現在のものです。



Special feature ようこそ広場へ【県劇盆踊り】  
**老いも若きも、ごいっしょに。  
 輪になって踊って、唄って、笑って。**

2023年8月15日④  
 メインステージ／演劇ホールホワイエ  
 サブステージ／コンサートホールホワイエ

2016年8月24日、その年の4月に発災した熊本地震からのこのころの復興事業の一環として県立劇場で開催した「県劇夏祭りへにゅ〜盆踊り」。熊本地震の後、県立劇場も大きな被害を受け、安全性を確保できるまで一時閉館し、復旧工事を行っていました。また、地域の人たちは生活の復旧に向けて日々に忙殺され、中には避難生活を余儀なく続けている人も多くいました。「文化芸術ができることはないか」と模索しながら、アーティストと熊本の被災者をつなぐアートキャラバン事業を進めていた県立劇場は、開館の目処がたった8月に人々が劇場に集い、楽しい場の空気を共有できる企画を立ち上げました。それが、

劇場のエントランス前で開催した「県劇夏祭りへにゅ〜盆踊り」でした。  
 当日は、ご近所の方から、遠くからお越しいただいた方まで、たくさんの方の地域の人たちで賑わいました。円陣を組み、揃いの振付で、音楽や太鼓のリズムに合わせて踊る。一体感と高揚感が混じり合った熱が会場を埋め尽くし、その翌年からは「県劇盆踊り」とタイトルを変え、夏の風物詩として毎年開催されるようになりました。  
 2019年は大型台風の影響によって中止となり、2020年からは新型コロナウイルスの流行でしばらく開催を見送っていましたが、今年2023年8月15日、5年ぶりに「県劇盆踊り」が演劇ホールホワイエをメインステージに開催されました。



welcome to the square



【ゲスト出演】新感覚邦楽エンターテインメント集団「あべや」  
〈津軽三味線〉阿部金三郎、阿部銀三郎 〈唄〉根本麻耶 〈舞踊〉安藤龍生 〈尺八〉佐藤公基

コロナ禍が落ち着き、ようやくお祭り騒ぎができるようになったこの夏、同じメンバーで別の地域でも演奏する機会も増えました。地域の民俗舞踊を、地域の人たちが踊り、楽しんでいる姿を檜の上から見ていると、民謡の底力とともに、熊本という土地の底力を体感しました。屋外ではなく、ホールのホワイエに檜を組み、外の天気や暑さを気にせずに、気軽に参加できるのがとても素敵だと思いました。演奏する私たちにとっても、みなさんから発される熱量を感じ、会場と一体となって楽しむことができ、特別な時間を過ごすことができました。劇場という、ふだんでは敷居が高いと感じられるところに、こうやって人が集まり、劇場の中で盆踊りを楽しむとても良いイベントに参加させていただきました。

ハイヤ節」が演奏され、踊りのレクチャーを受けながら参加者は会場で輪になって踊りました。指導する中山芳保先生の横で、突然小さなお子さんが踊り出す微笑ましい一幕も。まさに、老いも若きも入り交じって、血が騒ぐひとときでした。

今年の「県劇盆踊り」は、初の試みとして盆踊りステージ以外にも、サブステージのコンサートホールホワイエでは、地元のアーティストによる書道パフォーマンス、コント、朗読、落語のステージ。そしてエントランス前の屋外ではキッチンカーがずらりと並び、飲食スペースが開放されました。また、当日は浴衣姿で楽しんでいただけるよう、会場には浴衣レンタルスペースを設けました。カラコンロンと下駄の音がホワイエの空間に鳴り響き、三味線、唄、太鼓、尺八の音とともに、まるで特別な音楽会のような雰囲気もありました。

地域に伝わる  
 民俗舞踊、  
 みんなで踊れば  
 血が騒ぐ

8月15日は朝からスタッフ総出で「県劇盆踊り」の会場づくりが行われました。盆踊り会場となる演劇ホールホワイエには演奏者のステージである檜(やぐら)を組み、サブステージのコンサートホールホワイエには、輪投げ、射的、スパーボールすくいなどの緑日コーナー、そして地域のアーティストによるパフォーマンスが繰り広げられるステージを設置。慌ただしい準備の時間にも、久々に会う親戚や友だちを迎え入れる前のような、なんともいえないそわそわとした高揚感が漂っていました。

日中の暑さが残る17時。メインステージはゲスト出演者である新感覚邦楽エンターテインメント集団「あべや」の阿部金三郎、銀三郎の兄弟による津軽三味線の演奏で幕を開けました。台風7号の影響で、急きょ前日から熊本入りした「あべや」のメンバー。津軽三味線、唄、尺八、舞踊、太鼓の構成で、時折軽快なトークで会場を沸かせながら、民謡の世界を凝縮したステージが繰り広げられました。途中休憩をはさみながら、民俗舞踊の中山芳保会とともに「火の国音頭」「炭坑節」、牛深ハイヤ保存会と「牛深



県劇自主事業案内

KENGEKI  
KANGEKI

## Highlight

みんなで踊ろう！  
障がいのある人もない人も、  
一緒に踊るワークショップ

2023年7月15日(土)・16日(日)  
演劇リハーサル室



7月15日、16日の2日間、熊本県立劇場・演劇リハーサル室において『みんなで踊ろう！』障がいのある人もない人も、一緒に踊るワークショップ』(以下、『みんなで踊ろう！』)を開催しました。『みんなで踊ろう！』は、障がいの有無に関わらずダンスに興味がある方ならだれでも参加できる90分間のワークショップで、未就学児から60代の方まで合わせて36名が参加しました。

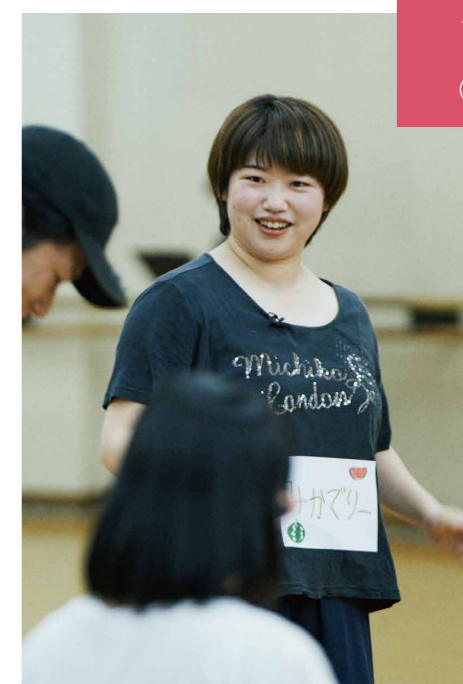
講師は、関西を中心に活躍されるダンサーの藤原美加さん。大阪の国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」において、障がいのある方と共に身体表現に向き合っていました。

参加者はまずワークショップ中に呼んでほしい名前や名札を作り、輪になって自己紹介。この夏にやりたいこともあわせて発表してもらいました。その後、ストレッチを行い、さっそく体を動かしていきます。体のさまざまな場所を自分の手で叩いていくクラップ

ダンスや、様々なニュアンスをつけて動いて止まるを繰り返すストップ・アンド・ゴーなど、ダンスの表現を通して身体を使い方や感情の表し方を体験しました。かっこよくダンスが決まった時には、自然と拍手が起るなど和やかな雰囲気ワークショップは進み、最後にはそれぞれがダンスを発表。「楽しかった」「また踊りたい」などの声も聞かれる中でワークショップは終了しました。

熊本県立劇場では、障がいを持つ方が地域の劇場で芸術や文化に触れる機会を増やすことを目的とした鑑賞プログラムをこれまで開催してきましたが、鑑賞だけに留まらず、どのような方にも表現をする側として参加する機会を提供することにも取り組んでいます。

『みんなで踊ろう！』はだれでも参加できる表現の場としてこれからも活動を続けていきたいと考えています。



講師の藤原美加さん

## Highlight

### Noism X 鼓童『鬼』



Noism X 鼓童『鬼』舞台写真 photo: Isamu Murai

熊本県立劇場は今年11月13日から2024年3月15日まで、改修工事のため施設の貸し出しおよび使用を停止しますが、工事中も様々な場所での事業を実施します。その中の一つが、市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市民会館)で実施する、『Noism X 鼓童』です。

本作品は、2022年に新潟などの5都市で上演され好評を博した、りゅうとびあ新潟市民芸術文化会館の専属舞踊団 Noism Company Niigata と、佐渡を拠点に活動する太鼓芸能集団 鼓童の初共演作品です。

「鬼」に対する様々な伝説やイメージが、音と身体でどのように表現されるのか。息つく暇もない展開の後に、おとずれるカタルシスを、ぜひ会場で体感ください。

さらに、公演の後半には、『Noism』の芸術監督である金森譲と、鼓童のメンバーによるトークショー&ミニコンサートも予定しています。こちらは

熊本公演だけの特別仕様！鼓童の魅力を余すところなくお楽しみいただける内容となっています。  
新潟から世界へ向けて同時代の創作を続ける両集団。待望の熊本公演をお見逃しなく！

#### 【Noism X 鼓童『鬼』】

開催日：2024年1月25日(木)

開催時間：開場 18:15

開演 19:00

終演 20:30(予定)

会場：市民会館

シアーズホーム夢ホール(熊本市民会館)

大ホール

入場料：【全席指定】S席：6,000円

A席：4,000円

※25歳以下の方、障がいのある方は半額

※未就学児の入場はご遠慮ください。

(有料託児サービスあり：要事前申込)

出演：Noism Company Niigata

演奏：太鼓芸能集団 鼓童

チケット発売：2023年10月29日(日)

まなびの風景

SCHOOL SQUARE

### 熊本県立玉名高等学校 箏曲部



現在の部員は4名。指導者の村上えり子先生を囲んで

明治時代、1903年に熊本県立熊本中学校玉名分校として開校、1948年に学制改革によって熊本県立玉名高等学校となった同校は、今年で120周年という節目の年を迎えました。今回の「まなびの風景」で紹介する箏曲部は、長い歴史を持つ学校で、約20年前に愛好会からスタートし、その後部活動に昇格して現在に至ります。箏曲部がはじまるきっかけとなったのは、現在も週に一度箏曲部の指導に通っている村上えり子先生。「玉名高校には、ずっと昔に箏曲部があったらしいのですが、私の娘が在校生の時には邦楽の部活動がありませんでした。地元で箏の教室を開いていたこともあり、まずは愛好会から、と娘の同級生2、3名からはじまりました」と、創部当時のことを覚えてくれました。箏曲部の活動は、7月に開催される熊本県器楽コンクール、9月の文化祭、12月には高校総文祭の熊本予選、そして3月の定期演奏会と、1年を通して4回の大きな演奏会に向けた練習が中心です。それぞれの演奏会で演奏する曲は生徒たちが選び、1年を通して仕上げていきます。

歴史のある高校で、平成にはじまった 玉名高校の箏曲部

自主性を大事に、今に生きている音楽を楽しむ部活動

指導者の村上先生のモットーは、自主性を大切にすること。昔からある古典楽曲だけでなく、今に生きている音楽を楽しむ、打ち込めるような環境をつくることにこだわっているといいます。現在は、3年生が受験のため引退し、1年生2名、2年生2名で活動しています。ほとんどの生徒さんが箏の初心者からのスタート。「1年生は7月のコンクールまでの3カ月間で舞台上立ちます。その吸収力、伸び代の大きさは素晴らしい。指導する私が刺激をもらっています」とのこと。今年7月から新部長に就任した2年生の才木愛海(めぐみ)さんは、「中3の時のオーブンスクールで箏曲部を体験、初めて箏にふれました。入学したら箏曲部と、その時に決めていました。部長としては今年の総文祭県予選での金賞、そして新規部員の獲得が大きな目標。そのために日々練習しています」とコメント。箏曲部の卒業生の中には箏を続けている人もおり、時には部員の指導にきてくれることもあり、つながりが深いのもこの部の伝統のようです。



(右)箏曲部部長の2年生 才木愛海さん  
(左)この日練習していたのは「千本桜feat.初音ミク」(文化祭用に練習中)

利用団体紹介

PLAYERS SQUARE



役員(左から) 成松 眞弓 平江 純一(会長) 中尾 るみ 坂本 和子

### 熊本県おかあさんコーラス連盟 歌うことの楽しさを広めていきたい

今回ご紹介する「熊本県おかあさんコーラス連盟」は、1986年に設立。共通点は、歌うことが大好きなこと。熊本県内の各地域で集まり、合唱祭やボランティア演奏など、普段はそれぞれの団体で活動を行っている女声合唱団28団体、約400名(2023年現在)が参加しています。連盟設立の年に第1回「熊本県女声合唱フェスティバル」を県立劇場コンサートホールで開催以来、今年で38回目となる合唱祭を毎年開催しています。参加団体ごとに7分ずつの持ち時間内で、好きな曲を演奏。それぞれに工夫を凝らした衣裳と演出で、オープニングからエンディングまで、ほぼ丸一日かけて行われるといいます。「コンサートホールは響きが高ですが、しっかりと練習しておかないと」と口々に語る参加メンバーにとっては、このフェスティバルはまさに晴れ舞台。毎年九州各地で活躍している指導者をお招きし、フェスティバルの最後に講評を受けるのが楽しみになっているそうです。「新型コロナウイルス

ウィルスの影響が拡大した2020年は、予定していた第35回のフェスティバルを中止し、さらにコロナ禍の影響で、練習場所の確保ができない状況が続きました」と語るのは、2018年に会長に就任した平江さん。コロナ禍でも仲間と一緒に歌う楽しさをつないでいきたいの思いで、その後の第36回、第37回を開催。第37回では、その演奏が評価され、2023年6月に開かれた熊本県文化懇話会・熊本県文化協会の総会で、奨励賞を受賞しました。毎年開催されるフェスティバルと同じく、全国から有名な指導者を招いて行われる合唱講習会もメンバーにとってはモチベーションになっているとか。「連盟発足当時から参加しているメンバーもおり、中には90歳を超えても元気に歌っている方もいらっしゃいます。キョウヨウ(今日用がある)とキョウイク(今日行くところがある)が大事だと感じます」と平江さんは語ってくれました。

第38回 熊本県女声合唱フェスティバル  
とき:2023年10月28日(土)  
開場 9:30  
開演 10:00  
終演 16:00  
ところ:熊本県立劇場 コンサートホール  
入場料:無料  
お問合せ:090-4999-7768(平江)

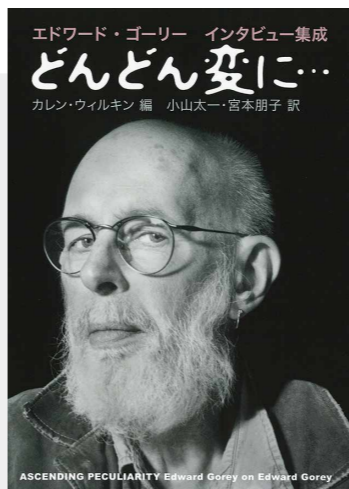


毎年11月に行われていた熊本県おかあさんコーラス連盟の「第38回熊本県女声合唱フェスティバル」は、今年は県立劇場改修工事のため10月に開催



熊本県立図書館タイアップ企画  
本の中にある劇場

熊本県立図書館と県立劇場のタイアップ企画として、2007年度から県立劇場の文化事業に関連する図書「公演を楽しむブックリスト」としてご紹介しています。作曲家や演奏家のこと、楽器にまつわる話や演劇の原作本。さらにはスポーツ、科学に関する本も！そしてこのコーナーでは、県立図書館職員おススメの一冊をご紹介します。ここでご紹介したおススメ本もブックリストの本も熊本県立図書館で読むことができますので、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



著／エドワード・ゴリー 編／カレン・ワイルキン  
訳／小山太・宮本明子 出版社／河出書房新社

熊本県立図書館 情報支援課 主任 下田 美超(しもたみき)  
エドワード・ゴリー  
インタビュー集

独特なタッチで描かれる、ちよつと不気味(に見えるかもしれないけれども魅力的)なイラストの彼の絵本を、一度は目にすることがあるのではないのでしょうか。ニューヨーク・シテイ・パレエの熱狂的ファンで、猫好き、途方もない数の指輪をはめ、『源氏物語』を愛読する、毛皮をまとった異様な人。というのは、あくまで周囲から見た評価であって、インタビューに淡々と答える本人はいたって冷静に「ゴリーらしい」答えを返していきます。その答えがこの本の帯にもある通り、まさしく「博覧狂気」なのですが。パレエ公演にあまりにも通い詰めているせいで、現れない(ほかのお客さんから)心配される、という一文にピッタリなのは「愛すべき変人」ではないでしょうか。県立劇場のことが大好きな人、そして県立劇場を「ホーム」としている人たちのことが大好きだという人。熱狂的に「好き」を追いかけている時は、誰しも「変人」なのかも……。でも、それでもいいですよ、大好きなんですもの(笑)。

劇場を安全に利用するために  
保守点検



吊物機構の心臓部とも言える制御盤を点検するスタッフ

県立劇場では、舞台機構を安全に使用するために定期的に機構の専門スタッフによる保守点検を行っています。今回は吊物機構の保守点検について、森平舞台機構株式会社の宮嶋利幸さん、三谷浩二さんにお話を聞きました。

宮嶋さん・舞台機構を人間の身体に例えれば、保守点検は健康診断のようなものです。ちよつと身体の調子が悪いんだけど、お腹の調子がイマイチで…など、人間であれば自分の状態を伝えることもできますが、機械は伝えてくれません。だから機構のことを熟知した専門スタッフが目で見て、耳で聞いて、手で触って微かな異変に気が付き早めに対処することが重要ですよ。

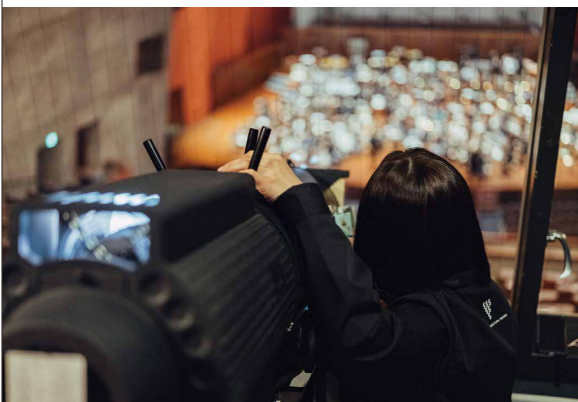
三谷さん・他の劇場での例ですが、吊物バトンを吊っているワイヤロープのキンク(捻じれや曲がり)や手引きバトンを上下させる引き綱ロープが切れそうになっていることを発見したことがありますが、作業員としてどこかに悪い所があるかもしれないという意識で緊張感をもって作業に当たっています。

宮嶋さん・劇場にお見えになるお客様はチケットを予約されたときからその日の公演を愉しみに当日をむかえられることと思います。舞台芸術は、機構設備はもちろんのこと、照明・音響設備がすべて支障なく機能し、演出家・運営スタッフの意のままに動作することでお客様の感動の一助を担っているとの思いで、誇りをもって仕事をしています。毎回点検前には劇場スタッフに機器の動作状況について問診し、限られた点検時間内で効率的な作業に努めています。

宮嶋さん、三谷さんの仕事への想いを伺い、かけがえがない一回切りの舞台芸術に携わる舞台スタッフとして、緊張感を持って仕事に取り組みたいと思います。

県劇スタッフリレーコラム  
舞台技術グループ  
金子千佳子「かぢこ」

ミュージカル



中学3年の時、初めてミュージカルを観た。あの時の雷に打たれた様な衝撃は今でも忘れない。こんな楽しい世界があるのか！それ以来、私はミュージカルの虜である。ミュージカル好きが高じて音楽の道を目指し、その後舞台の裏方の仕事に就く事になる。ミュージカルの大きな魅力は、現実を離れ非日常を味わえること。ストーリーと共に、そこに乗せられた歌や音楽が聴覚と心を同時に揺さぶり、心が震え、そしてそれが大きな感動となる。ミュージカル以外にもオペラ、バレエ、歌舞伎など様々な芸術があるが、

どの舞台にも欠かせないのが舞台セットだったり、照明、音響の効果だ。私はその中でも照明の仕事に携わってきたが、舞台の世界観を出すのに照明はとても大きな役割を持つ。例えば、朝の風景、夕方から夜になる変化、暑い夏のジリジリした空気感や、楽しい気持ち、怒り、悲しみを表現したり、また照らす(光を当てる)だけでなく、「見せたくない」エリアをつくる事によって、より立体的に舞台を「魅せる」こともできる。逆に全体明かりの中で、より「見せたいもの」によく使われるのがピンスポットと呼ばれるもの。人力で操作するのだが、見せたい人物の演技や動きをピックアップする事で観客の視線を集中させる役割がある。芝居や音楽に合わせて明かりの点け方&消し方がポイントで、それぞれで全く印象が変わるから面白い。「舞台はナマモノ」というが、役者の演技や動きも毎日違ってれば、肌の色味で見え方も全然違う。操作はとも難しく、全てにおいて一体感が生まれた時は最高に気持ちが良い。

コロナ禍で公演中止を余儀なくされ、オンライン配信もかなり普及した。お家で舞台が観れるのは魅力的だが、機会があれば是非劇場へ通って、数々の感動を肌で感じとってほしいかな？

寄稿

知的・発達障がい児(者)にむけての  
劇場体験プログラム「劇場って楽しい!!」案内役  
劇団 不思議少年

俳優 森岡光



私が生まれ育った島には、劇場がありませんでした。小学生の時、初めて都会の映画館に行った時のこと。大きなブザーの音と同時に客席が暗くなって、「えー故障？」と不安になりました。たが、周りの人は何も反応しないので、「ああ、これは始まりの合図なのだ」となんとなく気づいたのです。

「知らない」はじめて「って、一歩踏み出すのも、とても勇気がいることだったりします。でも、どんなことでも体験してみると、だんだんと楽しくなったり、得意になってきたりしますよね。その積み重ねが、人生を豊かにしてくれると私は思っています。

熊本県立劇場での、知的・発達障がい児(者)に向けての劇場体験プログラム「劇場って楽しい!!」では、劇場の仕組みをわかりやすく案内した後、リラクセスして芸術鑑賞を楽しむことができます。毎年開催されるので、少しずつ「楽しい」を積み重ねて、劇場に慣れてきた来場者もいらっしやると思っています。案内役を務める私自身も、だんだんと劇場や演奏される音楽に詳しくなってきましたよ！

「劇場って楽しい!!」には両手で大きくマルをつくるポーズがあって、プログラムの最後に出演者も観客もスタッフも、みんなこのポーズをします。舞台上から客席を見ると、ものすごい笑顔でマルを作る子どもたちとご家族の方が見えます。その瞬間こそ、私にとって「劇場って楽しい!!」と感じる幸せな瞬間です。また劇場でお会いしましょうね！